

平成 2 4 年度 第 2 回ツキノワグマ保護管理検討委員会

本文資料 目次

I 平成 2 4 年度の取り組み概要

- | | |
|------------------------|-----|
| 1. 個体数管理 | p 2 |
| (1) 捕獲数の管理 | |
| (2) 緊急時における捕獲許可事務の特例処理 | |
| 2. 生息環境整備 | p 2 |
| 3. 被害防除対策 | p 3 |
| (1) 被害状況 | |
| (2) 各種対策状況 | |
| (3) 取組の効果、検証及び課題 | |
| 4. モニタリング調査 | p 5 |
| 5. 隣接県との調整 | p 5 |

II 第 3 次ツキノワグマ保護管理計画（案）について

III その他

I 平成 24 年度ツキノワグマ保護管理施策の取組み概要

1 個体数管理

(1) 捕獲数管理

1) 平成 24 年度捕獲上限数および捕獲状況（12 月末現在） **資料 1**

（単位：頭）

区 分	捕獲上限	有害捕獲		狩猟	計	
		捕獲	うち放獣	捕獲	捕獲	うち放獣
北上高地	129	127	0	6	133	0
北奥羽	108	163	35	7	170	35
計	237	290	35	13	303	35

＊これ以外に、交通事故等 2 頭

2) 狩猟自粛要請

要請地区：なし

※9 月末までの捕獲頭数を基に、委員に対して意見照会した結果、狩猟自粛要請は実施しないこととした。（回答 14 名中、自粛要請不要 13 名、意見なし 1 名）

(2) 緊急時における捕獲許可事務の特例処理 **資料 2**

「岩手県の事務を市町村が処理することとする事務処理の特例に関する条例」により、人身被害に関わる緊急時における捕獲許可については、市町村において事務処理ができることとされているもの。

平成 24 年度実績 許可実績：1 件 捕獲実績：1 頭

＜市町村における捕獲許可実績＞

市町村名	捕獲許可日	捕獲実績
住田町	平成 19 年 8 月 17 日	1 頭
川井村	平成 19 年 8 月 17 日	0 頭
紫波町	平成 19 年 8 月 24 日	0 頭
一関市	平成 21 年 5 月 16 日	0 頭
岩泉町	平成 21 年 7 月 24 日	1 頭
奥州市	平成 22 年 6 月 12 日	0 頭
西和賀町	平成 22 年 9 月 4 日	1 頭
金ケ崎町	平成 23 年 7 月 2 日	0 頭
花巻市	平成 24 年 7 月 21 日	1 頭

2 生息環境整備

(1) 天然性林の保全・管理

コナラ等のツキノワグマの餌となる広葉樹について、造林や育成天然林整備の取組みを実施。

単位：ha（前年対比）

区分	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度
造林	66（75.9%）	64（97.0%）	54（84.4%）	集計中
育成天然林整備	655（98.1%）	571（87.2%）	725（127.0%）	集計中

（２）いわての森林づくり県民税の活用（いわて環境の森整備事業）

公益上に重要な森林で、森林所有者自らの管理が期待できない人工林を対象とし、針葉樹と広葉樹が入り混じった森林に誘導する混交林誘導伐（概ね５割の強度間伐）を実施。（平成 23 年度実績：1,315ha、平成 24 年度：集計中）

３ 被害防除対策

（１）被害状況

平成 24 年度人身被害状況（12 月末現在） 資料 3

県全体：18 件 18 人

北上高地：9 件 9 人 北奥羽：9 件 9 人

区 分	24 年度		23 年度	
	件数	件数	件数	人数
北上高地	9	9	7	8
北 奥 羽	9	9	9	10
計	18	18	16	18

（２）各種対策状況

１）人身被害防止対策

①普及啓発

実施内容：通知（４回）、新聞（６回・４社）テレビ（３回・２社）

リーフレット（3,000 部）、HP

実施時期：通年

< 通知 >

通知時期	注意喚起等依頼先	主な対象
H24.5.8	各市町村、農林水産部、振興局	主として山菜取り、行楽目的等の入山者、農業従事者
H24.6.19	東日本高速道路㈱、ＪＲ東日本㈱、三陸鉄道㈱、ＩＧＲ岩手銀河鉄道㈱	交通機関等への事故防止協力 緊急時の対応等協力
H24.8.1	市町村、振興局、県警	行楽シーズン並びに農作物の収穫時期の注意喚起
H24.8.1	市町村、振興局、猟友会	ツキノワグマ捕獲許可における事前調査時等の従事者の安全確保について 資料 4

<各種媒体（マスコミ（県で取材等対応したもの）、リーフレット等）>

時期	媒体	社名及び内容等
H24. 8. 14	新聞	岩手日日 クマ出没増 食害も
H24. 8. 19	新聞	岩手日報 クマ大量出没のおそれ
H24. 10. 1	新聞	岩手日報 きのこ狩りシーズン注意
H24. 10. 13	新聞	岩手日報 クマ人身被害が最多
H24. 10. 20	新聞	読売新聞 人里にクマ 増えるけが人
H24. 10. 25	新聞	朝日新聞 クマ目撃急増
H24. 7. 17	テレビ	N H K 出没対策等について
H24. 8. 31	テレビ	I A T 出没対策等について
H24. 11. 27	テレビ	N H K 次期保護管理計画について
通年	リーフレット	「クマに遭わないための 8 か条」 3,000 部 配布先：各市町村、振興局、ビジターセンター等

②地域における保護管理対策の推進（農林業被害対策も含む）

実施内容：「地区ツキノワグマ保護管理協議会」における検討及び研修

※平成 24 年度は 9 地区中 2 地区で実施済み。

③追払い対策の推進

煙火消費保安講習会を実施。（受講者 64 名：鳥獣保護員、市町村職員等）

2）農林業被害防除対策

①鳥獣被害防止特措法の活用

計画策定市町村（ツキノワグマを対象とするもの）

平成 24 年度新規策定：3 市町（花巻市、紫波町、奥州市）

策定済み：8 市町（盛岡市、一関市、金ヶ崎町、岩泉町、大槌町、山田町、西和賀町、北上市）

主な計画内容：環境整備（7 市町）、誘因物除去（7 市町）、追払い推進（8 市町）、捕獲体制整備（11 市町）、対象鳥獣捕獲員（3 市町）、電気柵設置（9 市町）、普及啓発（11 市町）、地域協議会（11 市町）、捕獲計画（0 市町）

3）その他出没等に関する対策

①市街地等の出没対策

市街地等への出没対応を踏まえ、吹き矢麻酔及び麻酔銃等の活用について検討、危険猟法許可を取得（平成 24 年 5 月 10 日付環地野許第 12510002 号）。

盛岡市内の河川について河川国道事務所により 1 月下旬から 3 月上旬にかけて公募伐採を実施する予定。（北上川左岸：明治橋下流左岸神子田地区 39,385 m²、雫石川左岸：杜の大橋下流左岸地区 26,075 m²）

②出没状況等の把握資料 5

4 モニタリング調査

(1) 捕獲記録

対象 : 有害及び狩猟による捕獲個体
方法 : 捕獲実施者及び狩猟者からの報告票提出
記録内容 : 捕獲日時、場所、体重、体長、性別、推定年齢、子連れの有無等
結果 : 資料 6

(2) 捕獲個体調査

対象 : 有害捕獲等個体のうち 19 頭
方法 : 社) 岩手県猟友会への委託契約により捕獲個体サンプルを収集し、岩手大学、盛岡市動物公園及び岩手県環境保健研究センターにおいて分析を実施
分析内容 : 微生物、寄生虫、薬剤耐性菌保有状況、年齢査定、脂肪蓄積量、繁殖状況等、放射性物質モニタリング
平成 25 年度より繁殖状況（年齢、繁殖、脂肪量等）および放射性物質モニタリングを中心に実施
結果 : 集計中

(3) ブナ堅果の豊凶調査

対象 : 北奥羽地域の 11 地点
方法 : 岩手県森林整備協同組合との委託契約により、9 月～11 月にかけてシードトラップ法により実施
平成 25 年度より自然保護課、環境保健研究センターによる自前での実施
結果 : 無結実 : 11 地点 55 トラップで 8 粒採取（虫害 5、しいな 3）資料 7

(4) 広葉樹等堅果類豊凶状況等調査

対象 : 県全域の広葉樹
方法 : 自然保護課職員による目視調査
結果 : 資料 8

※ブナ堅果豊凶調査の補完調査として実施しているもの。

(5) ツキノワグマ生息数調査

ヘアトラップ調査

対象 : 北上高地南部地域
方法 : 168 基のヘアトラップを設置し調査。
平成 25 年度より、小規模ヘアトラップを継続的に実施し、推移を把握する。
※次期計画策定のため、平成 21 年度から実施しているもの。平成 21 年度は北奥羽地域、平成 22 年度は北上高地北部において実施。

5 隣接県との調整

開催時期 : H25. 1. 30
開催場所 : 秋田県
協議内容 : 北奥羽地域個体群における保護管理状況等
※平成 21 年度から青森県も参加し、情報交換を行っている。